

* 塚教会CS新聞「いずみのひろば」は家族の人と一緒に読んで下さい。



いずみのひろば

2020年2月号

日本基督教団塚教会
No.495 教会学校



「エステル^{けっしん}の決心」

エステル^き記 4:4~16

ユダヤ人^{じん}モルデカイ^{ようじよ}の養女^{おう}エステル^{きさき}は、ペルシャ王^{きさき}クセルクセスのお妃^{きさき}さん
に^{えら}選ばれる。そのころ大臣^{だいじん}のハマンはモルデカイ^{たい}に対する恨み^{うら}からユダヤ人^{じん}を
皆^{みな}殺しにしようとしていた。ところが、エステル^ひ妃^{きてん}の機転^ひによってユダヤ人^{じん}が救
われ、逆^{ぎやく}にハマン^{だいじん}大臣^{しけい}が死刑^きになったというのがエステル^き記^{はなし}のお話^{はなし}です。

ハマン^{だいじん}大臣^{しよ}は、お城^{しろ}の門番^{もんばん}のモルデカイ^{じぶん}が自分^{とお}が通るときにひざまづいて
敬^{けい}礼^{れい}をしないのを見^みて腹^{はら}を立てていました。そこで、モルデカイ^ひさんやエステル^ひ妃^ひ
を含^{ふく}め、ユダヤ人^{じん}全^{じん}員^{ぜん}を皆^{みな}殺しにしようとする命^{めい}令^{れい}を出^だそうとしていたの
です。

そのことを知^しったユダヤ人^{じん}はすごくびっくりしてました。
モルデカイ^ひさんもエステル^{じん}妃^{こま}もユダヤ人^{こま}です。困^{こま}ってしまいました。
モルデカイ^{じぶん}さんは、自分^この子ども^{そだ}のように育^ひてたエステル^ひ妃^ひに、やめてくれる
ようにいいました。

しかし、エステル^ひ妃^{おうさま}は、「王^よ様に呼^よばれもしないのに近^{ちか}づけば死^し刑^{けい}になるから、
いいにいけません」と。

モルデカイ^{じん}さんはいいました。「ユダヤ人^{じん}全^{じん}員^{ぜん}が困^{こま}ってるのに！なんのための
お妃^{きさき}さんなの！何^{なん}とかして！」

エステル^ひ妃^いは、お祈^{いの}りして決^{けっしん}心^{しん}して、王^{おう}様^{さま}の所^{ところ}へ行^いって、何^{なん}とかしてユダ
ヤ人^{じん}皆^{みな}殺^{ころ}しの命^{めい}令^{れい}を取^とり下^さげてもらったのです。

エステル^ひ妃^{けっしん}の決^し心^{しん}は、死^し刑^{けい}になるかも知^しれないぐらいの勇^{ゆう}気^きあることでした。
私^{わたし}たちも、誰^{だれ}かが困^{こま}ってたり手^て助^{だす}けしたくても少^{すこ}し勇^{ゆう}気^きのいる場^ば面^{めん}に出^で
くわすことがあります。

そんなとき、躊^{ちゆう}躇^{ちゆう}せず、一^い歩^ぽ踏^たみ出^だす勇^{ゆう}気^きある私^{わたし}たちでありたいものです。
そうすることで、神^{かみ}様^{さま}によるこ^{ひと}んでもらえる、一^い人^{ひと}のキリ^{しや}スト^い者^{しや}としての生^いき
方^{かた}ができるのではないでしょう。

(おはなし 霜野直紀^{しものおき} 先生^{せんせい})